

令和4年度 学校評価一覧表

<p>本年度の重点目標</p>	<p>★よりよい授業づくり 系統性のある教育課程の構築・PDCAサイクルに基づく改善・障害の多様化、重度化への対応・キャリア教育・ESD活動・食育の推進・現職研修、自主研修の充実・教師同士の連携・GIGAスクール構想の実現・教材データの共有</p> <p>★安全・安心な学校づくり マニュアルの精査・実効性のある訓練の実施・学校事故の未然防止・的確、迅速な対応・いじめ防止・居場所づくり・人権への配慮・個人情報管理・多忙化解消</p> <p>★開かれた学校づくり 保護者との協力体制の構築・関係機関との連携・地域の教育資源の活用・校内、校外のサポート体制づくり・効果的な情報発信</p>
-----------------	--

項目	部	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題
よりよい授業づくり	小学部	新学習指導要領に対応した個別の指導計画の作成と活用。	・3観点に沿った計画・評価であることを意識して取り組む。 ・課題や改善事項等を設け、授業改善や引継ぎに生かす。 ・指導計画の作成のスケジュールや提示方法を含めて見直す。	・令和4年度からの新様式のため、保護者にも分かりやすく提示できるようにする。 ・年度初めに目標の提示がないため、学部内で随時啓発を行い、個々の意識を高めていくようにする。		
よりよい授業づくり	中学部	自立活動における時間の指導の充実。	・新しく起こした時間の指導について、グループの分け方、指導内容等について検討する。 ・校務支援システムなどを有効に活用して、適宜情報交換を行えるようにする。 ・学年会、部会の時間を中心に話し合いを行い、問題点を解決していく。 ・校内研究で作成している学習内容表の改善を行う。	・中学部全体での検討になるようにする。 ・帯時間で取り組む時間の指導との取組の違いが明確になるような年間計画を作成するようにする。		
開かれた学校づくり	高等部	農福連携と地域力を活用した教育活動(キャリア教育)の推進。	・本校を起点とした「農福連携会議(ドリームプロジェクト)」を定期的に開催し、関係機関の横断的な連携の充実を図る。 ・令和3年度も利用した青年の家の畑を「ユニバーサル農園」として新たに立ち上げ、地域力を活用してその充実を図る。 ・農福連携と作業学習をリンクさせて、作業内容の充実と作業班間の系統性を高める。	・農福連携の推進にあたっては、ファシリテーターを中心に、高等部全体でより組織的な実践を行う。 ・作業学習に特化した取組にとどまらず、領域・教科を横断的にとらえた取組を行う。 ・SDGsの理念に基づき、生徒の障害や特性に応じた課題設定を行う。		
安全・安心な学校づくり	指導安全	いじめの早期発見と丁寧な対策。	・年間2回のいじめアンケートを実施する。 ・アンケート結果を受けて、いじめの予兆があった場合は個別に、丁寧に対応する。	・アンケート結果や情報の扱いは、児童生徒の人権に配慮し、慎重に丁寧に対応する。 ・必要に応じて、いじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応する。適宜、スクールカウンセラーなどの関係者、関係機関とも連携する。		
安全・安心な学校づくり	教頭	勤務時間の適正な管理。	・勤務時間と休憩時間のけじめをつけた勤務を心がけ、習慣づけていく。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。	・会議時間の延長や、休憩時間の業務設定など、休憩時間や勤務時間外に業務を設定しないことを全職員で心がけていく。 ・休憩時間の変更に伴う課題(個別懇談会など)の検討を行う。 ・行事等の学校業務のスリム化を、年間を通して検討・推進していく。		

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題
よりよい授業づくり	総務	確かな学習支援が提供できる効率的な体制の整備。	・倉庫内の教材教具を職員間で共有し、有効利用できるように、お役立ちカタログ(=教材教具の一覧データ)の活用を推進する。 ・お役立ちカタログの更新及び、倉庫内に整理整頓して置かれているかのチェックシートを作成する。	・新転任の職員向けに本校の教材教具活用についての資料を配布する。お役立ちカタログをより便利に使える方法を伝え、全職員が有効利用できるようにする。 ・倉庫内の整理方法を具体的に提示し、学期ごとにチェックシートを使用して確認する。		
よりよい授業づくり	教務	45分授業を踏まえた日課表の実施と改善。	・初めに、改めて職員や保護者に共通理解を図ったうえで実施する。 ・前期の実施を受け、アンケート等で意見を伺う。 ・すぐに改善可能なものは後期から、時間の必要なものは次年度に向けて検討を行う。	・年度当初の職員会議や保護者会で周知を図る。 ・意見を伺う前に、勤務体制やスクールバスなど変更可能なことと不可能なことを確認しておく。 ・変更時期の早いスクールバス等については、早々に検討を始める。		
安心・安全な学校づくり	指導安全	防犯・防災体制の充実。	・様々な条件で避難訓練を実施する ・防災物品の充実	・壁の崩壊、けが等やパニックになって動けなくなった児童生徒への対応など、想定される状況を複数考えて実施する。 ・ヘルメット、ネットランチャーなどの防災・防犯用品の設置を検討していく。		
よりよい授業づくり	進路支援	進路指導における職員の専門知識の向上。	・自主研修会を実施する。 ・進路指導に関するアンケートを実施し、職員のニーズを聞きとる。	・職員へのアンケートをからニーズに応じたテーマで研修機会を設定する。 ・校務部会の職員全員で研修内容を確認したり、研修を分担したりして知識を広める。		
開かれた学校づくり	支援	センター的機能としての役割の充実。	・小学部の居住地域での交流活動において本校職員と一緒に活動する。 ・巡回相談の内容について校務部会にて検討する。	・居住地域での交流では、相手校との連携を取り、一緒に授業を行い、具体的な支援方法について伝える機会とする。 ・巡回相談では、校務部会の時間を利用し、相談内容の検討を行う。また、巡回相談の様子等を支援部職員に回覧等を利用し、情報提供を図る。		
よりよい授業づくり	研修	職員の専門性を高める研修の実施。	・職員のニーズを知り、専門性の向上につながる実践的な研修を計画する。 ・各校務分掌と連携し、夏季研修、自主研修の機会に研修を設定する。 ・研修に参加しやすい方法を検討し環境を整える。	・前年度に行った研修に関するアンケートを基に内容を検討する。 ・研修項目に関連した校務分掌に研修を依頼し、研修の具体的内容や時期について話し合う。 ・少人数でのグループ研修や動画での保存、場合によってはオンラインなど様々な方法を検討する。		

よりよい授業づくり	情報図書	GIGAスクール構想の実現を目指したICT機器の活用。	・学校配備の機材を授業や学校生活の中で有効的に活用する ・分掌間で連携し、研修の機会を設定する。	・県整備のGIGAスクール端末を使い、授業などで活用できるアプリケーションを積極的に利用していく。 ・学期内、長期休業中の職員向けの研修を設定する。またみあいワークショップなどでも活用する方法を発表する。		
安心・安全な学校づくり	保健体育	ICTを活用した保健教育の実践と保健管理の充実。	・より多くの児童生徒が落ち着いて検診を受けられるように保健教材を活用する。 ・緊急時に誰でも対応に当たることができるように研修の機会を設定する。	・保健教材の保存場所や利用方法を周知する。 ・学期に1回程度、学年会等の時間を利用して緊急時の対応の流れを確認する。		
よりよい授業づくり	自立活動	確かな学習支援が提供できる体制づくり。	・自立活動に関する相談窓口を設ける。 ・愛知県三河青い鳥医療療育センターとの連携を推進する。	・相談の受付から、対応についてマニュアル化する。 ・愛知県三河青い鳥医療療育センターと連携し、職員、保護者のニーズに合った講演会、作業療法士によるケース会や個別相談会を企画・運営する。		

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)

		評価	評価結果及び今後の課題
よりよい授業づくり	・新学習指導要領を意識した年間指導計画の作成や授業の展開を行い、各研修を通して資質を高める。 ・45分授業の日課表の検討と定着、及び教育課程の再構成を積極的に実践する。 ・ICT機器を活用した教材の作成と活用、情報共有を推進する。		
安全・安心な学校づくり	・実行性の高い訓練の実施や、防災への備えを推進する。 ・合理的配慮を意識し、人権に配慮した児童生徒への指導や学習活動の展開に努める。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。同時に、はじめをつけた勤務設定を習慣付ける。		
開かれた学校づくり	・各校務における横のつながりを意識するとともに、関係機関との連携を生かし、高い教育効果を得るように努める。		